

各委員会行政視察報告

総務企画委員会

◆視察月日 11月18日～20日

◆視察市 京都府長岡京市

兵庫県神戸市、小野市

◆視察項目

長岡京市

・災害用マンホールトイレ整備事業

神戸市

・人と防災未来センター

小野市

・行政経営の手法

◆災害用マンホールトイレ整備事業

長岡京市では災害時に一時避難場所となる市内全14小中学校に5年間で災害用マンホールトイレ204基を設置。全体の事業費は約1億5千万円。マンホールトイレシステムの導入には新たに下水道の取付管を敷設し一定間隔でマンホールを設置し、災害時にマンホールのふたを取り、椅子を組み立てるテント型のトイレであった。校内のプールの水を洗浄して利用する。実際の組み立てられたトイレを見る限りプライバシーにも十分に配慮され、避難者100名に1基の割合で設置されているため緊急時の対応としては非常に高い効果が期待できるものであった。ただ能代市でもそのまま利用できるかと言われると、寒冷地仕様としての追加対策が必要と思われる。

人と防災未来センター

阪神淡路大震災の教訓をもとに、自然災害の脅威や防災・減災の意識高揚を目指した教育資料館。視察で訪れた当日も多くの子供たちが学校の授業で訪れており、災害のメカニズムや過去の災害履歴、今後の起こり得る事前の備えについて学んでいた。我々委員メンバーも館内では阪神淡路大震災の体験映像やビル倒壊等により当時の悲劇を再現した町並みの散策、震災を経験された方々の動画や災害に備えるための具体的な事前準備など様々な展示物から改めて自然災害の恐ろしさや防災教育の必要性について理解を深めることができた。

行政経営の手法

全国の行政改革の中でも特に注目を浴びている兵庫県小野市を訪れた。行政を「経営」とするという小野市では方針管理制度と呼ばれる独自の手法を用い、その政策執行のスピードと成果を上げていた。方針管理制度とは、従来の決められた業務を決められたとおり実行するという慣例を排除し、決められた目的・目標を達成することこそが仕事であるとし、目標の達成状況をチェックする仕組みを導入。PDCAサイクルを基本とするチェックと評価体制を充実さ

せ、職員の報酬にも反映させるなど頑張るほど手当に反映されるなど職員の意欲向上にもつながっていた。驚くことに12年度から導入・試行錯誤を繰り返して、現在では自身が設定した目標を他者が困難度指数をもつてその達成難易度を客観的に評価する手法を取り入れるなど改善し続ける姿勢を感じた。このような手法により定住対策も積極的に実施しており、人口はほぼ横ばいを続けているなど、減少が続いている能代市としても見習うべきは多くあった。

(佐藤)



小野市役所にて

文教民生委員会

◆視察月日 10月27日～29日

◆視察市 東京都豊島区

愛知県大府市

◆視察項目

豊島区

・学力向上の取り組み

・教育連携の取り組み

大府市

・ウェルネスバレー構想

・健康都市づくりの取り組み 学力向上の取り組み 教育連携の取り組み

当市と教育連携協定を締結し、教育交流事業が盛んに行われている豊島区では、「教育都市としま」を掲げ豊島区教育ビジョンに基づき、確かな学力の育成、豊かな人間性の育成など教育内容の充実や、教師力の向上に力を入れている。学力向上の取り組みとして、豊島区立の全小中学校にタブレット端末を各校の台整備し、学びの環境を充実させている。教育連携の取り組みは、教員の派遣交流で人材育成を行っていることと、中学生体験交流を行っている。教育連携後、校舎の改築の際、能代産の秋田杉を活用して、校舎内の木質化や、木の棚や傘立て、テーブル等を設置して、学校関係者からも好評を得ている。

ウェルネスバレー構想 健康都市づくりの取り組み

大府市では誰もが「ここに生まれてきてよかった、ここで暮らしてきて幸せだった」と思える「幸福社会」を目指し、先駆的な取り組みを推進している。大府市と隣の東浦町では、あいち健康の森とその周辺エリアを「ウェルネスバレー」と名づけ、健康長寿の一大拠点に発展することを目指している。独立行政法人国立長寿医療研究センターやあいち健康プラザをはじめ、健康・医療・福祉に関する施設が多数立地する全国でも